

学校教育目標	豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒
目指す学校像	安全かつ安心して学び生活できる学校・学ぶ喜びを実感できる学校・生徒や保護者。地域から信頼され、愛される学校
重点目標	1 教育DXによる学びの自律と個別最適化の推進 2 生徒が主体的に学ぶ活動の充実 3 保護者、地域に信頼される学校づくり (コミュニティ・スクール) の推進 4 組織的な生徒指導・教育相談体制の充実 5 教職員一人ひとりを大切にした職場づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>学びの質の向上に関する取組</b> □現状 ・学校は全体的に落ち着いており、生徒は授業規律を守り概ね真面目に学習に取り組んでいる。 ・R6 全国学力・学習状況調査では、国語・数学共に全国平均を上回る結果となった。 ・中学校区での連携も順調である。 □課題 ・「教える」授業から「学ぶ」授業への転換 ・基礎学力が定着していない生徒へ対応。 ・授業におけるICT活用のさらなる推進。 ・小中のさらなる連携。	・学びの質の向上に繋げるカリキュラム・マネジメントについて ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について	① カリキュラム・マネジメントを意識した授業へのシフト ② 単元重視に基づく、教科横断的学習の推進。 ③ ②によって生み出された時間を用い、学習の深化による学びの質の向上実現。	学校評価生徒アンケート「授業は楽しくわかりやすい」の肯定的評価向上 (R6:90%→R7:93%) 学校評価保護者アンケート「学校は生徒の学力を高め、能力を伸ばしてくれているか」肯定的評価向上 (R6:69.8%→R7:70%以上)	・教科横断的な学習については、スタート段階であり、今後、より多くの教科で取り組んでいく。保護者アンケートの結果は以下のとおり。 「授業は楽しくわかりやすい」の肯定的評価 90% (R6)→93.6% (R7) 「学校は生徒の学力を高め能力を伸ばしてくれているか」 69.8% (R6)→77.3% (R7)	A	・作成したカリマネデザインマップを、学校全体として十分に活用するにいたらなかった。対応策を協議し、次年度は活用を確実に推進していく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 生徒が授業を楽しんでいると感じている現状は、意欲的な学びを支える大切な土台であり、高く評価する。今後はICT活用を一層推進し、主体的・協働的な学びをさらに深めていってほしい。 近隣小学校との合同コーチング研修は、小中一貫した指導の観点からも継続を望む。特に、保護者と共に学んで家庭との歩調を合わせた試みは素晴らしく、次年度も、この取組をさらに発展させていくことを期待する。
2	<b>子どもの発達や心のサポートに関する取組</b> □現状 ・全体的に落ち着いて授業等に取り組む、表立った非行事案はほとんど見られないが、SNSトラブルの頻発と不登校等により教室に入れない生徒が少なくない現状がある。 □課題 ・教室以外で過ごす生徒対応に人手が足りない。 ・SNS等の重大なトラブルに係り、外部機関との連携強化が必要。 ・多様化する生徒及び保護者に対する理解と対応	・子どもの安心、安全に関する取組について ・生徒指導・教育相談に関する取組について	① 「おはようメーター」、「心と生活のアンケート」、担任との「やりとり帳」等を用いた個々の生徒の状況把握と情報共有の徹底 ② さわやか相談室、「Sola る一む」の効果的活用の推進	① 学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答割合維持または向上 ② 不登校生徒、教室に入れない生徒数1割減	・該当項目の肯定的評価が、昨年度より向上した。 ・不登校生徒、教室に入れない生徒の人数の減少には至らなかったが、Sola る一む、相談室で個々に合った形の学びに取り組むことができた。	B	・生徒見守りの人材として、Sola る一むにボランティアを配置した。より適切な運用に繋げるために、ボランティアの運用規程を整備する必要がある。	
3	<b>地域とともにある学校づくりに関する取組</b> □現状 ・学校運営協議会では、目指す生徒像及び地域で協働できることについて熟議できている。 ・授業参観等への保護者参加機会の積極的設定。 □課題 ・学校運営協議会のさらなる熟議の充実と具体的方策の一步を踏み出す。・学校・家庭・地域が、生徒の「自立」目指して支援しようとする共通認識に立つ必要がある。	・学校運営協議会やSSN、関係機関との連携について ・家庭と地域と協働して行う学校行事やイベントについて	① 学校運営協議会での学校・保護者・地域との具体的な協働等についての熟議 (年3回) ② 校内活動の広報ツールの整備	① 地域連携に関する学校アンケートの関連項目の肯定的評価75%以上 ② 学校だより等で校内の様子をタイムリーに周知できたか。	・校内の様子について、学校だより、学年だよりで周知することができたが、HPの整備が進まなかった。	B	・子育てに関し、地域・保護者・学校で協働できることについて熟議を進めることができた。	
4	<b>教育環境の整備に関する取組</b> □現状 ・備品点検及び予算の適切な執行等により、施設は概ね整っている。 ・空調機器の老朽化と過剰な負荷によるものと思われる故障等が起きている。 □課題 ・一人一台端末の破損が多く、修理等の対応が追いつかない状況。機器管理方法の見直しが必要。・SDGsを意識した取組の充実が急務。	・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための環境整備について ・学校施設の安全管理について	① 備品点検と適切な予算執行の継続 ② ICT機器の状態と台数の定期的な確認	① 保護者アンケートの関連項目の肯定的評価維持 (R6:90.6%→R7:90%台) 確実な予算執行 (R6:97.5%、R7:98%)	・備品点検の時間設定で教職員全員が作業を分担できた。備品状況の把握により予算を適切に実行できた。	A	・備品点検→備品把握→適切な予算執行という流れを今後も継続させていく。	
5	<b>教職員のキャリア形成に関する取組</b> □現状 ・平均年齢：約36歳、平均経験年数：約9年 ・コロナ禍の活動縮小等により、指導技術等の継承が十分でない部分が見られる。 □課題 ・学年主任や教務主任として全体を見ることができるような教員の育成が急務。 ・様々な生徒、保護者に対応できる実践力や危機管理意識の涵養が急務。	・教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上について ・働き方改革や業務効率化についての取組について	① 経験年数に応じた資質向上のための適切な研修の確認と受講奨励 ② 事故・不祥事防止のための服務研修及び自己チェック (年3回) ③ 3年以内の教員の授業参観と指導助言 (学期に1回以上)	① 全ての教員が「研修プラットフォーム」を活用し、主体的に自己研修を実施できたか。 ② 不適切な指導等を防げたか。 ③ 管理職による指導助言を日頃の生徒への指導に還元できたか。	・人事面談での研修奨励により、自己研修を進めることができた。 ・不適切な指導を避けなかった。 ・授業相互参観及び管理職の参観による助言や指導を通じ、指導力向上に繋がった。	B	・キャリアの振り返りを元に、自己に合った研修を受講するよう奨励し、確実な成長に繋げていく。 ・今後さらに教職員研修を充実させていく。	
			① ICT機器を活用した教材等の開発と共有の推進 ② 教職員の心身の健康状態の確認	① 時間外勤務時間の平均が4.5時間以下を達成できたか ② ストレスチェックで要面談人数3人以下であったか。	・時間外勤務時間の平均は1.5時間となった。 ・ストレスチェックにおいて「総合した健康リスク」は平均値を1.0ポイント下回った。	B	・適切な校務分掌により、業務の偏りを出来るだけ減らしていく。	